

受付番号第2号、質問議員10番、遠藤和秀。

件名、「町長の今後の町に対する熱意を問う」。

町長は、町民から負託を受け、町政の最高責任者として、3期が終わろうとしている。町の課題が山積している中「みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた」を目標に掲げて、山北町行政の推進に取り組み、東山北1000計画に基づく大型商業施設のオープン、大企業の誘致、町営住宅の建設、ヒルズタウン丸山などの土地利用の推進や、D52復活による町のイメージアップ、町民福祉の向上等は町長の成果と思う。

しかしながら、少子高齢化による急激な人口減少には歯止めがかからず、大きな課題になり、行政運営に厳しさが増してきていると思う。

そこで質問する。1、山北町第5次総合計画後期基本計画に掲げた「みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた」だが、町長の自己評価はいかがか。今年の7月に町長選を迎えるが、4期目に対する町長の考えは。

2、急激に進む人口減少と少子高齢化（約4割が高齢者）に対する今後の考えは。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 ただいま、遠藤和秀議員から「町長の今後の町に対する熱意を問う」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北町第5次総合計画後期基本計画で掲げた「みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた」だが、町長の自己評価はいかがか。今年の7月に町長選挙を迎えるが、4期目に対する町長の考えは」についてでございますが、私は平成22年7月に山北町長に就任し、同年8月の山北町議会臨時会において、「元気な山北のまちづくり」に全力で取り組むことを表明いたしました。その際に、「元気な山北をつくる」ため、町民の皆様と協働でまちづくりの柱となる「新たな総合計画」を策定することをお約束いたしました。

そして、平成24年度から25年度にかけて策定した「山北町第5次総合計画」は基本構想は10年間、基本計画は前期5年間、後期5年間という計画構

成となっております。

前期基本計画には、私が所信表明において、町民の皆様にお約束した「元気な山北のまちづくり」の実現に向けて、重要と考えられる施策、事業を位置づけました。特に、この計画で、町の将来像としている「みんなでつくる魅力あふれる元気なまち やまきた」の実現に向けて、重要な取組については、二つの重点プロジェクトである「町民力・地域力を発揮するプロジェクト」と「若者定住・子育て支援プロジェクト」として定め、優先的に実施することといたしました。

そして、町民の皆様や町議会の御意見を伺いながら、本町が直面している喫緊の課題を解決するために全力で取り組み、多くの成果を上げることができました。

前期基本計画の計画期間である平成26年度から平成30年度における具体的な成果としては、「（仮称）山北スマートインターチェンジの事業化」、「サンライズやまきたを含む山北駅北側の整備」、「原耕地地区への大型商業施設の誘致」、「丸山地区への企業誘致」、「蒸気機関車D52の動態化」、「東山北駅前広場の整備」などが挙げられます。

また、教育関係では、「町立小・中学校の統廃合」、「岸幼稚園の新築」、「やまきたこども園の開園」、「鹿島山北高等学校の誘致」などが挙げられます。

そして、前期基本計画の最終年度となる平成30年度には、平成31年度から令和5年度までの後期基本計画を策定する準備を進めました。後期基本計画については、基本構想の部分は、前期基本計画と同様に、基本計画については、前期基本計画の施策、事業の進捗について費用対効果を含め、徹底的に分析、検証した上で、第5次総合計画の後期5年間で町が実施すべき事業の洗い出しを行い、必要な事業を位置づけることとしました。後期基本計画は、本年度で3年目を迎えるわけですが、これまでの主な成果としては、「みずかみテラス整備工事着工」、「洒水の滝遊歩道の整備」、「ヒルズタウン丸山の分譲」、「ぐみの木近隣公園の施設充実」、「デマンドタクシーの試行運行」、「御殿場線ICカードの利用拡大」、「山北高等学校教育改革推進事業への連携・協力」、そして本年4月から実施する「0歳から15歳まで

の一貫教育・保育」などが挙げられます。

しかし、令和元年10月の台風19号による甚大な被災や令和2年度から始まった新型コロナウイルスの感染拡大により、それらへの対応を優先せざるを得なくなり、後期基本計画に位置づけられた事業実施を先送りする事態も発生しました。

後期基本計画の計画年次は、残すところ、あと2年余りであり、実施が遅れている事業も一部ございますが、コロナ禍の状況なども見極めながら、この計画に位置づけられた施策、事業の実施に取り残しのないよう全力で取り組んでいきたいと考えております。

そして、山北町第5次総合計画の計画年次は、令和5年度までとなっておりますので、令和4年度から2年かけて、「山北町第6次総合計画」の策定を進めてまいります。策定に当たっては、第5次総合計画に示された施策、事業の分析、検証はもとより、町を取り巻く状況や町民の意識も10年前とは大きく変化しておりますので、本町の将来のあるべき姿に向けた行政運営の指針として、作成していきたいと考えております。

自己評価といたしましては、やはり人口減を引きますと、私の感想としては7割ぐらいかなというふうには自分では思っております。これが私の4期目に臨むに当たっての決意でございます。

次に、2点目の御質問の「急激に進む人口減少と少子高齢化（約4割が高齢者）に対する今後の考えは」についてでございますが、現在の山北町の人口につきましては、10年前と比較すると、2,000人弱の減少となっており、その要因は、転出者と転入者を上回る社会減少と死亡者が出生者を上回る自然減少の状況が続いていることで、近年では、社会増減については、転出者と転入者の差が少ない傾向にございますが、自然増減では、死亡者が出生者を大幅に上回り、毎年140人前後の差で推移しております。高齢化率についても、10年前は約30%でしたが、現在では40%を超える状況となっております。

また、0歳から18歳までの人口の割合も10年前の14%から11%と、約500人の減少となっております。このような状況の中、少子化に歯止めをかけるため、町では、様々な子育て支援事業の充実を図ってまいりましたが、

子どもの人口は減少し続けている現状となっております。

しかし、子育て支援事業を実施していなければ、さらなる少子化が進行するものと推測されますので、減少を緩やかにするということでは一定の効果があるものと考えております。

また、65歳以上の人口につきましては、ほぼ横ばい状態で、今後は減少していくものと推測しておりますが、戦後生まれの団塊の世代が順次介護リスクの高まる75歳以上に到達することから、総人口の減少と相まって、高齢化率は増加傾向が続くと推測されます。

町では、これまでに高齢者の生活支援の充実を図るために、町の単独事業として、福祉タクシー助成券の交付や移送サービス、緊急通報サービスなどの実施及び充実を図ってまいりましたが、少子高齢化の問題は山北町のみならず全国的な問題となっており、町では、今後も子育て支援の充実や高齢者が安心して暮らせるよう事業の充実を図っていきたいと考えております。特に少子化に対しましては、重点的に取り組んでいかなければならないと考えておりますので、令和4年度には、幼稚園、保育園、こども園の町内在住園児を対象とした無料化による完全給食の実施や放課後児童クラブの利用料の見直しなどを行っていく予定でおります。

また、高齢化につきましても、マイナスとして捉えず、地域で活躍する高齢者の方々も多く見受けられることから、支援の受け手側でなく、支え側として活躍できるような事業の展開を図っていきたいと考えております。

人口減少の問題につきましては、少子高齢化のみならず、今後も定住総合対策事業大綱を基本として、情勢の変化を捉えて随時計画の見直しを行うなど、効果的な対策を図れるよう、関係各課と連携しながら継続して取り組んでまいりたいと考えております。

議 長

10番、遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤

4期目に出馬されるということは、先日タウンニュースのほうで出馬意向は確認しました。ぜひ、住みよい、安全、魅力のあふれる元気なまちづくりに期待します。

それと、先ほど自己評価70%と答弁でありました。残り30%、強いて言えば30%、40%もっと増えて、もっともっとよくなるように、それ以上に頑張

っていただきたいと思っています。

次に、昨年質問した脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー導入推進事業のマイクロ推進発電の進行状況はどうなっているか。

議  
町

長 町長。

長 山北町の再生エネルギーでございますけれども、今現在進めておりますのは、マイクロ水力発電についてはパークゴルフ場のところに今進めております。ほかにどういったところができるか、山北町、非常に水が豊富でございますので、できるだけ山間部、そういったようなところでマイクロ水力が発電ができれば、やはり地域で住んでいただく方に安心、安全を味わっていただけるのではないかというふうに思っておりますので、これからもマイクロ水力については、積極的に行っていきたいと。

また、バイオですとか、あるいは太陽光も含めてですけども、可能であればできるようにやっていきたいというふうに思っております。再生バイオについては、先ほども山北にありますさくらの湯とぶなの湯のボイラーについて、これらをできるだけ木材を使った再生エネルギーで今後やっていきたいというふうに考えておりますので、ぜひともそういった意味では、脱炭素というようなテーマでございますけども、町といたしましても、積極的に推進していきたいというふうに考えておりますので、ぜひ御理解いただければというふうに思っています。

その中に、ちょっと脱炭素というような中で、先ほどの中でも触れましたけども、やはり私としては、山北町これだけ森林がございます。90%以上が森林という中で、脱炭素というCO<sub>2</sub>を減らすというようなことは、非常に大事な問題ではないかというふうに考えております。先ほど和田議員の中でもございましたけども、和田議員のほうはどちらかというと、森林整備と災害というようなことでございましたけれども。私は、基本的にはもしチャンスをいただけるのなら、森林そのものの利用、そういったことが非常に大事ではないかというふうに考えております。そのためには、やはり今ある森林を未来の子どもたちにどのように届けるか、それが我々大人の与えられた一つの使命だというふうに思っております。

そういった中では、ぜひとも一つのテーマ、今、私のほうで考えているの

はCFOというような、チルドレン・フォレスト・オフィサーというようなことを考えておりますけども、そういった中で、一つの森林をどういうふうに届けるかという、そういう基本理念を共有できる自治体であるとか、企業、個人、そういった大勢の人たちの賛同を得ながら、もしやっていたら、私は、先ほど和田議員がおっしゃったような森林譲与税についても理解をいただけるのではないかとこのように思っております。

やはり、これから森林が持っている水源の涵養力ですとか、様々なものというのを私は宝物のようなものだというふうに思っています。これがずっと放置されたために昆虫や動物やそういったものも住みにくくなり、そして離れて行って、それがいろいろな問題を引き起こしている。そういったようなことがあるというふうに思っております。時間はかかるというふうには思いますけども、ぜひともこういった中で、森林が持っている涵養力とか様々な宝物も、もう一度次の世代の子どもたちに我々は渡していく、届ける、そういった責務があるのではないかとこのように思っておりますので、チャンスをいただければ、ぜひそういったような中で一つの基本理念によって賛同していただける自治体とか、様々なものが、方がいらっしゃいましたら、私としては、そういったことを積極的に進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 今の町長の御答弁、本当にうれしいです。いいすごい考えだなと思いました。山北町では、水がこの辺近辺では一番多いです。ぜひ再生エネルギーのマイクロ水力発電、これをぜひ早急にやっていただいて、他町の見本となるようなものをつくっていただきたいと。森林のほうもバイオのほうもぜひ進めて行っていただきたいと。これは山北ならではと思うんです。一番いいことだと思いますので、ぜひその辺も期待しますので、来期も頑張ってくださいと思います。

それと、三保幼稚園が岸幼稚園に統合することになりました。その後の三保幼稚園の再利用の考えはありますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、三保幼稚園も園児が非常に少なくなったということで、

岸のほうに統合させていただきましても、当然、跡地利用というものについては、地域の皆様を含めたところで相談していかなければいけないというふうに思っておりますけども、基本的には、あそこが学校、今鹿島山北高等学校がございますけど。教育にできるだけ特化したようなところというふうに考えておりますので、そういったことを地域の方と共有しながら、どういったような土地利用がいいのか、みんなで考えていきたいというふうに思っております。そういった中では、先ほどもちよろっとありましたけども、森林教育であるとか、あるいは湖を利用した様々な体験学習、そういったものが一つはあるのではないかとこのように思っておりますので、様々な可能性について、ぜひ忌憚のない、皆さんの御意見もいただきながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長  
10 番 遠 藤

遠藤和秀議員。

ぜひ山北のためになるような跡地の使い方、利用をしっかりと考えて使っていただきたいと思います。

それと、人口減少の答弁ありましたけど、本当に山北というのは、少子高齢化問題が本当に大きな問題だと思うんです。だから、この中もしっかりしたい答弁でありましたけど、さらなるもっと以上に、もっともっとよくなるように考えていただきたいと思うのと。最後になりますけど、4期目に向けた町長の新規事業の計画の考え、それと4期目に向けた意気込みを再度お願いします。

議 長  
町 長

町長。

新規事業については、先ほどちらっと言いましたけど、森林関係について、進めてまいりたいというふうには思っておりますけど、山北の一番の喫緊の問題は人口減少や様々な問題でございます。その中で一番期待しなきゃいけないのは、スマートインターが令和5年度で開通するというところでございますので、その土地利用、あるいは周りに与える影響というのは非常に大きいというふうに考えております。私の考え方としては、物をつくるだけではなくて、いろいろなブランドやデザインはもちろん考えていかなければ、皆さんと一緒に、地域の皆さんと考えていかなければいけませんけど、つくり続ける、やり続けるということが地域を活性化するんだというふうに思っ

おります。ただ物をつくっただけでは魂が入りませんので、それをどのように運営して、そしてどのように変えていくかということが一番大事ではないかというふうに考えておりますので、様々な提案を、今企業のほうあたりからいただいております。やはりスマートができたときに、道の駅とか、河内川のふれあいビレッジのようなものをもっと大型化できないかというような地域からの提案もございませし、企業からの提案もございませ。私もできれば、あれだけの要するにインターから出てすぐのところ、そしてそこから例えば大野山とか、ああいうところにも行ける、あるいはダムの方にも行ける、そういったような立地条件、そういったようなものを考えたときに、やはり町としては、最重要な課題というふうにして捉えておりますので、ぜひとも、そのための様々なものをまずは第一優先に考えていきたい。

そして、2番目としては、先ほど少し言いましたけど、これだけ広大にある山北町の森林をどのように後世に伝えるか、そして、それをまた皆さんに都心の人、様々な人に利用していただけるか。そういったようなことが大事だろうというふうに思っています。様々な例えばみずかみテラスであるとか、D52であるとか、あるいは企業誘致であるとか、あるいは公園の整備、様々なものがほかに付随しております。その付随していることは、全て人口減少をくい込めたり、関係人口を増やしたり、そういったことにつながっていく。私はそういうふうに思っておりますので、例えば洒水の滝が今度遊歩道が完成いたします。皆さんにも、それを見ていただくというふうに、この議会の中でなっておりますけども、それも、ただ遊歩道ができたということだけでなく、それをどのように活用し、どのようにそれから先につなげていくのか。皆さんはただ観光客が来ればいいのかと、そういうことではないと思います。山北町が魅力的で住みたいな、あるいはまた来たいなと、そういったようなことを感じていただけるような、そんなようなことを続けていきたいと、そういうふうに思っておりますので、ぜひとも4期目に、もしチャンスいただけるのなら、そういったようなことを全力でやっていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ御理解いただければというふうに思っています。

私のほうからは以上です。

議 長 遠藤和秀議員。  
10 番 遠 藤 ぜひ実行してください。終わります。